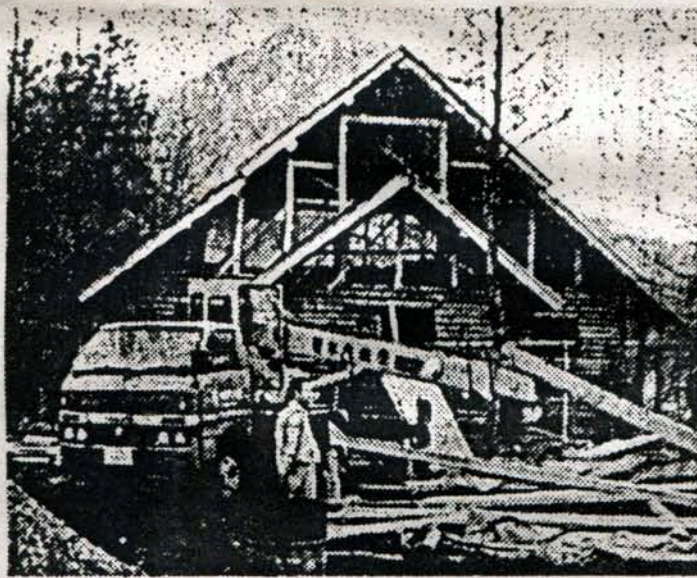


建築業者がログハウスを組み上げているところ、ボーイスカウトのメンバーや保護者もテントに宿泊して協力していました。冬季は雪のために入れないので工事は遅れている。

ログハウスで自然体験

池袋の保育園が佐久に建設



完成間近で工事のピッチも上がるログハウス

父兄や職員が手作りで

「緑の少ない都内の子どもたちに、大自然の中の遊び場を作ってあげよう」と、豊島区池袋の私立保育園の父兄や保育園関係者が、葛野原佐久市に建設を進めていた丸太組みのログハウスが近く完成することになり、二十九日、現地でオープニング・パーティーを開く。この保育園は二十五年前、父兄の協力でバラックの園舎を建てた。実績があり、今回も、父兄が、風倒木の皮をむいたり、木を削ったりの労働力を提供、六年がかりでログハウスを建設した。屋根工事は地元業者に発注したものの、内装などは自分たちの手で行うことしており、園児たちは「早く泊まりたいよ」と完成を心待ちにしている。

夏休み園児の宿舎に

ログハウスを建設しているのは、池袋本町三丁目社会福祉法人「みのり保育園」の帰山祐子園長と五七ら園職員と園児の父兄、OB、さらに帰山園長が副園長を務めるボーイスカウト豊島十二団の団員やそのOBなど約百人。

「みのり保育園」は、帰山さんらが、さる三十四年、同地区の神社境内に、夏の間、地域の二歳から五歳までの子供たち三千人ほどを集めて始めた青少年育所が最初。池袋の繁華街裏の住宅密集地で、

共稼ぎの家も多く、子供たちが持つて来る十円玉でパンやミルクを買い、寄付してもらった不用品の蓄音器やオルガンで園児の面倒をみた。

同地区は、西と南を高速道路、北と東をJR線と東武東上線車道に囲まれ、緑が極端に少ない地域。園では、四十年代初めから「子供たちを自然に親しませよう」と埼玉県内にある区の林間学校施設などに泊まりがけ遠足を行っていたが、思うように利用できず、五十五年、「なんとか

子供たちに大自然を味わわせたい」と、父兄や卒園者など約四百人の浄財を集めて、佐久市内山に広さ二万三千平方尺の原野を購入、「大自然ひろば」と銘打っていた。五十八年からは、園児の父兄や職員、帰山さんが創立したボーイスカウト豊島十二団の園児らが交代で現地に通い、子供たちが宿泊するログハウス作りを始めていた。多い人は年間七回も通い、現地にテントを張って五日間泊まり込んで協力してくれた大学生も。突入の手作りのため、工事は大遅れ。昨年末、屋根など一部工事を地元の製材業者に依頼、当初計画の「今春完成」に何とか間に合った。オープン式では、作業に協力してくれた佐久市の関係者を招待、トン汁などで野外パーティーを行うことにしているが、式後は、再び父兄や職員、OBが毎週通って内装を完成、夏前には子供たちが宿泊できるようにすることにしている。